

# サラリーマンは300万円で小さな会社を買いなさい

## 人生100年時代の個人M&A入門

### File.1「会社を買う」ことをおすすめします

文 三戸 政和 text by Masakazu Mito

これまで平凡なビジネスキャリアを歩んでいた人でも、これからお伝えする「会社を買う」ための知識と実際の行動で、「あちら側の人間（資本家）」になれる可能性が十分にあります。

実は、ビジネスマンには大きく2つのタイプしか存在しません。朝の満員の通勤電車に乗り、夜遅くまで働くなど、時間を切り売りしながら給与を得ている「こちら側の人間（雇われたサラリーマン）」と、自由に休みが取れ、好きなことを好きなようにやっつけている「お金がお金を生む「あちら側の人間（資本家）」です。

この違いは、どこから生まれるのでしょうか。

フォーブスジャパンが発表した「日本長者番付50」（2017年）を見てみると、大富豪たち全員が創業者または創業者の家柄であり、オーナーまたは筆頭株主であることがわかります（気になる方はフォーブスジャパンのサイトを見ていただきたいのですが、50位まで全員、オーナー系社長だといえます）。

一般の社員から出世してトップに上り詰めたり、外部から招聘されたりした社長は、たとえ時価総額が巨大な企業の社長を務めていても、こうした長

者番付に入ってくることはまずありません。なぜでしょうか。

個人の優秀さの差でも、社長を務めた企業の時価総額の差でもありません。会社という「箱」を持っているオーナー社長なのか、はたまた、結局はサラリーマンという雇われ社長なのかの相違に行き着きます。

上場企業のサラリーマン社長では、せいぜい数千円から数億円の役員報酬をもらうだけで精一杯（もちろん、一般のサラリーマンに比べたら、これでもはるかに高額な報酬ですが）。しかも、任期は数年程度であることが一般的ですから、そこまで大きな資産を形成することはできません。

一方、オーナー社長であれば、役員報酬（労働の対価）に加えて、保有株式の配当（資産が生み出す収入）と、その株自体の資産価値が自分に帰属し、巨額の資産形成が可能になります。例えば、孫正義さんがソフトバンクから得る年間報酬は1億3000万円ですが、保有する株式の配当収入は94億7900万円で、資産総額は2兆円だそうです。

株式上場するレベルに達した同じ規模の企業の「社長」としての仕事そのものは、やることも社内における重要度も、負担も、そこまで大きく変わらないと思います。しかし、会社という

「箱」を自分個人が所有しているかどうかで、「実入り」はまったく違ってきます。

これから行おうとしている提言は、現在はサラリーマンであるあなたでも、中小企業の社長になって経験と能力を生かして活躍しよう、会社という「箱」を所有して「資本家」（＝あちら側の人間）になろう、というものにほかなりません。そして最後は、豊かな資産に恵まれた資産家を目指してもらいます。



「サラリーマンは300万円で小さな会社を買いなさい 人生100年時代の個人M&A入門」 (講談社+α新書) 定価907円(税込)

### Profile

日本最大級のベンチャーキャピタル（運用総額1,500億円）にて、国内外の投資先に経営参画しながら、成長戦略、株式公開支援、M&A戦略、企業再生戦略などを行う。その後、兵庫県議会議員として、行政改革に着手後、地元の加古川市長選挙出馬のため議員辞職し出馬するも、落選。ロンドンにて神戸ビーフのプロモーション会社 Tajimaya UK の立上げを行い、従業員へ事業引き継ぎ。中小企業むけの事業承継・事業再生専門の投資ファンドである日本創生投資を創業。

